

授業科目	保育実習・保育所		授業形態	実習	単位数	2	単位	
担当者	実習委員会委員及び実習園職員							
ナンバリング	E42P161	開講時期	2年次前期	授業時間数	80	時間	授業回数	一回
必修・選択	保育士:必修		実務経験のある教員による授業科目			該当する		
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○	
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。							
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。							
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						○	
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。							
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所の概要、保育士の勤務内容を説明できる。</li> <li>・子どもの個性を知り、それに応じた関わりを試みる。</li> <li>・観察したことを丁寧に記録できる。</li> <li>・ねらいをもって絵本・紙芝居を選択し、また、子どもの関心を惹く読み聞かせを試みる。</li> <li>・「フィードバック能力」(1)「自分の実践について検証し、課題を見つけることができる」を身につける。</li> </ul>							
授業計画	<p>実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日課、保育士の職務を、観察を通して理解する。</li> <li>・子どもの成長や遊びの実態について、観察・参加を通して理解する。</li> <li>・実際に日誌を記入することにより、保育記録の取り方を身につける。</li> <li>・絵本や紙芝居の読み聞かせを実践する。</li> <li>・実習態度、保育実習能力の観点から自己評価を行い、自身の課題を明確化する。</li> </ul>							
	授業時間外学修	<p>予習： 実習の意義や目的、心構えについて十分に確認する。体調を含め、実習に向けた準備を整える。</p> <p>復習： 日誌を記入し、実習の振り返りを行う。</p>						
教科書・テキスト	<p>保育所保育指針（平成29年3月告示 文部科学省）</p> <p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年3月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）</p> <p>実習ノート（羽陽学園短期大学実習委員会編）</p>							
参考書・参考資料等	適宜資料を配付する。							
成績評価の方法・基準	各保育所の評価、学内で課したレポート、提出物、日誌等から、各領域理解の程度（60%）、「フィードバック能力」(1)獲得の程度（16%）、実習参加度（24%）で評価する。							
課題に対するフィードバックの方法	実習後に、園評価・各種提出物の得点は全てフィードバックし、講評を行う。							
授業時間外学修	<p>予習（実習実施各日約30分）、復習（実習実施各日約1時間）として、授業計画で示された内容を実施する。</p> <p>フィードバックされた結果を踏まえ、自己評価すると共に既習内容の理解を深める。（約1時間）。</p>							
備考	実務経験のある担当者による授業科目である。							

	<p>担当者は、実習園にて保育士として業務に従事する実務経験を持つ。保育士としての実務経験を活かして、保育所の日課、保育士の職務、子どもの成長や遊びの実態、保育記録の取り方、子どもとの関わり方について実例を示しながら指導を行う。</p> <p>実習実施にあたっては、「教育実習指導」の単位を修得し、「保育実習指導」で課される保育実習保育所関連の課題を達成していなければならない。</p>
<p><b>連絡先（質問等）</b></p>	<p>担当教員に関しては、実習指導の授業においてアナウンスがある。</p> <p>担当教員のオフィスアワーに関しては、学生便覧「オフィスアワー」を確認すること。</p> <p>その他、実習指導の授業前後に教室にて質問を受け付ける。</p>

授業科目	保育実習・施設		授業形態	実習	単位数	2	単位
担当者	実習委員会委員及び実習施設職員						
ナンバリング	E42P162	開講時期	1 年次後期 (2 年次前期)	授業時間数	80 時間	授業回数	一 回
必修・選択	保育士:必修		実務経験のある教員による授業科目			該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の業務に参加し、実践することで、施設の社会的役割の理解を深め、施設保育士の業務内容を把握し、適切に実践できるようになる。</li> <li>・施設利用者（児）と各種活動を通じて関わり、対象の理解を進め、適切なコミュニケーションが図れるようになる。</li> <li>・施設利用者（児）のニーズを理解し、状況に応じ、適切な生活支援ができるようになる。</li> <li>・施設利用者（児）との関わりを通じて、「コミュニケーション能力」(4)「対話する能力」に広がりを作り、伸ばす。</li> </ul>						
授業計画	<p>実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設で行われている業務に参加し、実践する。</li> <li>・入所施設においては、職員の指導の下、利用者（児）の日常生活活動を支援し、自立に向けた援助を行う。</li> <li>・施設利用者（児）と各種活動を通じて、コミュニケーションを図り、対象の理解を進める。</li> <li>・施設内でのミーティング、研修等を通じて、施設保育士に求められる能力・資質についての理解を深める。</li> <li>・実習内容を適切に記録し、活動についての省察を行う。</li> </ul>						
	授業時間外学修	<p>予習：</p> <p>実習の意義や目的、心構えについて十分確認する。体調を含め実習に向けた準備を整える。</p> <p>複数年の実習報告書に目を通し、自分が行く実習先の実習内容の把握に努める。</p> <p>自分が行く施設の実習種別について、教科書等や施設のホームページを参考に施設の理解、利用者の特性などについて、あらかじめ理解を深めておく。</p> <p>復習：</p> <p>日誌を記入し、実習の振り返りを行う。</p> <p>実習報告書を記入し、自らの実習内容をまとめる。</p>					
教科書・テキスト	<p>実習ノート（羽陽学園短期大学実習委員会編）</p> <p>過去の施設実習の実習報告書（図書館・施設実習担当教員保管）</p>						

参考書・参考資料等	適宜、資料を配布する。
成績評価の方法・基準	実習施設の評価、実習報告書の完成度、記入された日誌の充実度、各種提出物の提出状況等から、総合的に「コミュニケーション能力」(4) 獲得の程度 (20%)、専門的理解の程度 (60%)、実習参加度 (10%) で評価する。実習報告会報告者は加点あり。
課題に対するフィードバックの方法	実習後に、園評価・各種提出物の得点は全てフィードバックし、講評を行う。
授業時間外学修	予習 (実習実施各日約 30 分)、復習 (実習各日約 1 時間) として、授業計画で示された内容を実施する。フィードバックされた結果を踏まえ、自己評価すると共に既習内容の理解を深める。(約 1 時間)
備考	<p>実務経験のある担当者による授業科目である。</p> <p>担当者は、実習園にて施設職員 (施設保育士・指導員等) として業務に従事する実務経験を持つ。施設職員 (施設保育士・指導員) としての実務経験を活かして、施設の日課、施設職員の職務、利用者の生活やニーズの実態、支援 (実習) 記録の取り方、利用者との関わり方・支援のあり方について実例を示しながら指導を行う。</p> <p>実習実施にあたっては、「教育実習指導」の単位を修得し、「保育実習指導」で課される保育実習施設関連の課題を達成していなければならない。</p>
連絡先 (質問等)	<p>担当教員に関しては、実習指導の授業においてアナウンスがある。</p> <p>担当教員のオフィスアワーに関しては、学生便覧「オフィスアワー」を確認すること。</p> <p>その他、実習指導の授業前後に教室にて質問を受け付ける。</p>

授業科目	保育実習指導Ⅱ		授業形態	演習	単位数	1 単位	
担当者	実習委員会及び実習施設職員						
ナンバリング	E42S163	開講時期	2年次 前期・後期	授業時間数	44 時間	授業回数	22 回
必修・選択	保育士:選択必修			実務経験のある教員による授業科目		該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	各種施設での更なる深い実践の場としての、様々な実習に向けての、事前や事後に於ける指導を行い、保育士としての能力が高まるようなプログラムを準備し、学生を導いていく。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種の施設での更なる内容の濃い実習に対応できるようになる。</li> <li>・実習毎の事前指導(全体指導や個別指導を含む)を受けることによって、実習への準備の手助けとする。</li> <li>・実習毎の事後指導(全体指導や個別指導を含む)を受けることによって、実習を振り返り、学習の手助けとする。</li> <li>・〔前期〕「フィードバック能力」(2)「見つけた課題について修正や改善をすることができる」を身につける。</li> <li>・〔後期〕「学び続け、成長し続ける能力」(1)「自分の実践について振り返り、より良い実践を目指して、主体的に学ぶことができる」を身につける。</li> </ul>						
計画	第1回	テーマ	施設実習事後指導				
		内容	1年次春休み中に実施した施設実習について、全体指導と巡回車による個別指導を行う				
		授業時間外学修	予習:	シラバスを熟読しておく。 実習日誌に目を通し、反省事項を抽出しておく。			
			復習:	実習を振り返り、実習報告書を作成する。			
	第2回	テーマ	保育実習保育所オリエンテーション				
		内容	「実習のねらい」「実習生調書」の作成を含む				
		授業時間外学修	予習:	シラバスを熟読しておく。 実習ノートの参考になる部分を読んでおく。			
			復習:	実習ノートに授業内容を記録し、反芻しておく。			
	第3回	テーマ	教育実習Ⅱ事前指導(含;履歴書の書き方)				
		内容	実習内容を指導し、履歴書の書き方を学ぶ。				
		授業時間外学修	予習:	シラバスを熟読しておく。			
			復習:	内容を理解し、履歴書を作成する。			
第	テーマ	保育実習保育所オリエンテーション					

4 回	内 容	実習について指導する	
	授業時間外 学修	予習：	シラバスを熟読しておく。 実習ノートの該当箇所に目を通しておく。
		復習：	実習ノートに授業内容を記録し、反芻しておく。 課された提出物を作成し、提出する。
第 5 回	テーマ	保育実習保育所事前指導	
	内 容	巡回指導教員による個別指導を行う	
	授業時間外 学修	予習：	シラバスを熟読しておく。 提出物に記入しておく。
		復習：	実習への理解を深め、準備する。
第 6 回	テーマ	感染症についての講義	
	内 容	感染症についての理解を含める。	
	授業時間外 学修	予習：	配布資料を熟読する。
		復習：	感染症への理解と対処法を学ぶ。
第 7 回	テーマ	教育実習Ⅱオリエンテーション	
	内 容	指導案（日案）の書き方を指導する。「実習のねらい」「実習生調書」を作成する。	
	授業時間外 学修	予習：	シラバスを熟読しておく。 実習ノートの該当箇所に目を通しておく
		復習：	実習ノートに授業内容を記録し、反芻しておく。 課された提出物を作成し、提出する。 実習予定園とオリエンテーションの日程調整をする。 「ねらい」「調書」を作成する。
第 8 回	テーマ	附属幼稚園主幹教諭による模擬保育と日案指導	
	内 容	現役幼稚園教諭たちの講義と演習を受講する	
	授業時間外 学修	予習：	シラバスを熟読しておく。 事前に予告された服装と準備物を用意する
		復習：	実習ノートに授業内容を記録し、反芻しておく。 課された提出物を作成し提出する。
第 9 回	テーマ	保育実習保育所事後指導	
	内 容	巡回指導教員による個別指導を行う	
	授業時間外 学修	予習：	シラバスを熟読しておく。 実習ノートの該当箇所に目を通しておく
		復習：	実習ノートに授業内容を記録し、反芻しておく 課された課題を作成・提出する。
第 10 回	テーマ	施設実習（夏期）事前指導・教育実習Ⅲ事前指導・社会福祉実習事前指導	
	内 容	巡回指導教員による個別指導を行う	
	授業時間外 学修	予習：	シラバスを熟読しておく。 実習ノートの該当箇所に目を通しておく
		復習：	実習ノートに授業内容を記録し、反芻しておく

			課された提出物を作成し、提出する 実習予定施設とのオリエンテーションの日程を調整する。
第 11 回	テーマ	教育実習Ⅱオリエンテーション	
	内 容	附属園主幹による全体指導を行う	
	授業時間外 学修	予習：	シラバスを熟読しておく。 実習ノートの該当箇所に目を通しておく
		復習：	実習ノートに授業内容を記録し、反芻しておく。 課されたレポートを作成し、提出する。
第 12 回	テーマ	保育実習Ⅱ事前指導	
	内 容	「実習のねらい」「実習生調書」を作成する	
	授業時間外 学修	予習：	シラバスを熟読しておく。 実習ノートの該当箇所に目を通しておく
		復習：	実習ノートに授業内容を記録し、反芻しておく。 課された提出物を作成し、提出する。 「ねらい」「調書」を作成する。
第 13 回	テーマ	教育実習Ⅱ事前指導	
	内 容	巡回指導教員による個別指導を行う	
	授業時間外 学修	予習：	シラバスを熟読しておく。 実習ノートの該当箇所に目を通しておく
		復習：	実習ノートに授業内容を記録し、反芻しておく 保育教材や絵本などの準備を行う。
第 14 回	テーマ	施設実習（夏期）事後指導①・教育実習Ⅲ事後指導	
	内 容	巡回指導教員による個別指導を行う	
	授業時間外 学修	予習：	シラバスを熟読しておく。 実習ノートの該当箇所に目を通しておく。
		復習：	実習ノートに授業内容を記録し、反芻しておく。 課された提出物を作成し、提出する 実習施設に礼状を出しておく
第 15 回	テーマ	教育実習Ⅱ事後指導①	
	内容	全体指導と巡回指導教員による個別指導を行う	
	授業時間外 学修	予習：	シラバスを熟読しておく。 実習ノートの該当箇所に目を通しておく
		復習：	実習ノートに授業内容を記録し、反芻しておく 課された提出物を作成し、提出する 実習園に礼状を出しておく。
第 16 回	テーマ	保育実習Ⅱ事前指導	
	内 容	巡回指導教員による個別指導を行う	
	授業時間外 学修	予習：	シラバスを熟読しておく。 実習ノートの該当箇所に目を通しておく。

		復習：	実習ノートに授業内容を記録し、反芻しておく。 実習園とのオリエンテーション日程を調整しておく。
第 17 回	テーマ	教育実習Ⅱ事後指導	
	内容	評価表と全体指導	
	授業時間外	予習：	シラバスを熟読しておく。
	学修	復習：	評価を受け入れ、実習を振り返る。
第 18 回	テーマ	保育実習Ⅱ事後指導	
	内 容	全体指導を行う	
	授業時間外 学修	予習：	シラバスを熟読しておく。 実習ノートの該当箇所に目を通しておく
		復習：	実習ノートに授業内容を記録し、反芻しておく 課された提出物を作成し、提出する 実習園に礼状を書いておく。 1年次と2年次の実習日誌を比較して、自身の成長に気付く。
第 19 回	テーマ	施設職員による講話	
	内 容	施設職員などによる「里親制度」についての講義を行う	
	授業時間外 学修	予習：	シラバスを熟読しておく。 実習ノートの該当箇所に目を通しておく
		復習：	実習ノートに授業内容を記録し、反芻しておく。 されたレポートを作成し、提出する
第 20 回	テーマ	まとめと授業評価・施設実習事後指導②	
	内容	授業全体の振り返りをし、学生からの授業評価をもらう	
	授業時間外 学修	予習：	実習ノートを読み返しておく
		復習：	実習ノートに授業内容を記入し、反芻しておく。 課された提出物を提出する
第 21 回	テーマ	実習報告会①	
	内容	自分の希望する分科会での実習報告会に参加し、実習全体を振り返り、将来の保育者としての成長のための糧とする	
	授業時間外 学修	予習：	実習ノートを読み返しておく
		復習：	実習ノートに授業内容を記入し、反芻しておく。 課された提出物を提出する
第 22 回	テーマ	実習報告会②	
	内容	自分の希望する分科会での実習報告会に参加し、実習全体を振り返り、将来の保育者としての成長のための糧とする	
	授業時間外 学修	予習：	実習ノートを読み返しておく
		復習：	実習ノートに授業内容を記入し、反芻しておく。 課された提出物を提出する
教科書・テキスト	幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省） 保育所保育指針（平成29年度3月告示 厚生労働省）		



	<p>幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省）          実習ノート（羽陽学園短期大学実習委員会編）</p>
参考書・参考資料等	適宜資料を配布する
成績評価の方法・基準	<p>授業への出席の様子、学内で課したレポート、提出物、日誌等から、各領域理解の程度（20%）、          専門的技能習得度（20%）、〔前期〕「フィードバック能力」(2)・〔後期〕「学び続け、成長し続ける能力」(1)          獲得の程度（30%）、授業参加度（15%）、技能習得の努力度（15%）で評価する。</p>
課題に対するフィードバックの方法	レポート等には、採点后、講評を行う
授業時間外学修	<p>予習（各授業回約 30 分）、復習（各授業回約 30 分）として、授業計画で示された内容を実施する。          テキストや資料を見直し、既習内容を確認する。（約 50 時間）          授業全体を振り返り自己評価し、既習内容の理解を深める。（約 3 時間）</p>
備考	<p>実務経験のある担当者による授業科目である。          担当者は、実習施設の施設長や幼稚園での主幹教諭であり、実務経験が豊富である。その経験を活かして施設の実情に合った有益な指導を行う。</p>
連絡先（質問等）	<p>担当教員に関しては、実習指導の授業においてアナウンスがある。          担当教員のオフィスアワーに関しては、学生便覧「オフィスアワー」を確認すること。          その他、実習指導の授業前後に教室にて質問を受け付ける。</p>

授業科目	保育実習Ⅱ	授業形態	実習	単位数	2 単位
担当者	実習委員会委員及び実習園職員				
ナンバリング	E42P164	開講時期	2 年次後期	授業時間数	80 時間
必修・選択	保育士:選択必修	実務経験のある教員による授業科目			該当する
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。				○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。				
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。				○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。				
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。				
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育全般に参加して、日々の保育のつながりを理解して子どもと関わることができるようになる。</li> <li>・子どもの個人差について理解し、関わりを通して一人一人に合わせた援助方法を学ぶ。</li> <li>・指導計画（日案）を立案し、最後まで実践する。</li> <li>・実践を振り返り、保育士としての課題を明確にすることにより、「自分で考え、実践できる能力」(4)「実践における様々な問題を解決することができる」を身につける。</li> </ul>				
授業計画	<p>実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1年次の実習と同じ保育所（施設側の都合により変更する場合もある）での2度目の実習である。</li> <li>・1年次の実習よりも、更に子どもと積極的に関わって保育を実践する。</li> <li>・指導計画（日案）を立案し、全日を責任者として保育を実践する。</li> <li>・保育者や子ども、保護者などからの多くの学びを活かして、今後の成長の糧とする</li> <li>・実習内容を適切に記録し、活動についての省察を行う。</li> </ul>				
	授業時間外学修	<p>予習：実習の意義や目的、心構えについて十分確認する。体調を含め実習に向けた準備を整える。</p> <p>1年次に記録した実習日誌を読み返し、課題点を整理し、新たな目標を明確に設定する。</p> <p>全日（責任）実習に向けての保育教材の準備をする。</p> <p>復習：日誌を記入し、実習の振り返りを行う。</p> <p>1年次に記入した自らの実習日誌との比較により、自身の成長を確認する。</p>			
教科書・テキスト	<p>実習ノート（羽陽学園短期大学実習委員会編）</p> <p>1年次の自身の保育実習日誌</p>				
参考書・参考資料等	適宜、資料を配布する。				
成績評価の方法・基準	<p>保育所の評価、記入された実習日誌の内容、事前事後指導の内容により、各領域理解の程度（20%）、専門的的技能習得度（40%）、「自分で考え、実践できる能力」(4)獲得の程度（20%）、実習参加度（10%）、技能習得の努力度（10%）で評価する。実習報告会報告者は加点あり。</p>				
課題に対するフィードバックの方法	実習後に、園評価・各種提出物の得点は全てフィードバックし、講評を行う。				
授業時間外学修	予習（実習実施各日約30分）、復習（実習実施各日約1時間）として、授業計画で示された内容を実施する。				

	フィードバックされた結果を踏まえ、自己評価すると共に既習内容の理解を深める。(約1時間)
備考	<p>実務経験のある担当者による授業科目である。</p> <p>担当者は、実習園にて保育士として業務に従事する実務経験を持つ。その実務経験を活かして、保育の日課、保育所職員の職務、園児の生活やニーズの実態、実習記録の取り方、園児や保護者との関わり方・支援のあり方について実例を示しながら指導を行う。</p> <p>実習実施にあたっては、「教育実習指導」の単位を修得し、「保育実習指導」で課される保育実習Ⅱ関連の課題を達成していなければならない。</p>
連絡先(質問等)	<p>担当教員に関しては、実習指導の授業においてアナウンスがある。</p> <p>担当教員のオフィスアワーに関しては、学生便覧「オフィスアワー」を確認すること。</p> <p>その他、実習指導の授業前後に教室にて質問を受け付ける。</p>

授業科目	保育実習指導Ⅲ		授業形態	演習	単位数	1	単位
担当者	実習委員会委員および実習施設職員						
ナンバリング	E42P165	開講時期	2年次 前期・後期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	保育士:選択必修		実務経験のある教員による授業科目			該当しない	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	保育実習Ⅲに向けて、事前事後指導を行う。選択実習であるため、前回までの実習の学びと課題を整理し、より深い学びにつなげる。実習報告会での発表を前提に事前事後指導を行う。自己の経験、学びをわかりやすく他者へ伝える方法を考える。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の特徴や機能の違いについての理解を深める。</li> <li>・実習を通じた主体的な学びの過程に気づき、確認する。</li> <li>・実習を通じて学んだ成果について発表し、発表会を通じて他者の学びについても気づくことができる。</li> <li>・〔前期〕「フィードバック能力」(2)「見つけた課題について修正や改善をすることができる」を身につける。</li> <li>・〔後期〕「学び続け、成長し続ける能力」(2)「実践の経験を再構築して、専門的知識・理解・技術へと高めることができる」を身につける。</li> </ul>						
授業計画	第1回	テーマ	オリエンテーション 実習希望調査				
		内容	授業、実習の概要を説明する。				
		授業時間外学修	予習： 保育実習施設の振り返りをする。 復習： シラバスを読む。				
	第2回	テーマ	実習希望先の調査（種別、施設概要などについて）				
		内容	実習を希望する施設についてリサーチする。調べた内容をもとに学生間で共有する。				
	第3回	授業時間外学修	予習： 実習を希望する施設についてリサーチする。 復習： 調べた内容実習ノートにまとめる。				
		テーマ	実習依頼事務作業、実習報告会での発表について				
	第4回	内容	実習の依頼事務作業を行う。実習報告会での発表方法について、確認をする。				
		授業時間外学修	予習： 実習ノートを読む。 復習： 授業の内容を実習ノートにまとめる。				
	第4回	テーマ	実習日誌を元に、保育実習施設の振り返りと自らの課題の明確化				
		内容	保育実習施設の振り返りを行い、学生間でディスカッションする。実習に向けた目標を明確にする。				
		授業時間外学修	予習： 保育実習施設の日誌を読む。				

	学修	復習： 保育実習施設の反省点をまとめる。
第 5 回	テーマ	保育活動の事前準備と教材研究、実習の写真記録について
	内 容	実習先の利用児、利用者に合わせた保育活動の事前準備を行う。学生間で保育案について意見交換を行う。実習報告会に向けた実習の写真記録について、確認する。
	授業時間外 学修	予習： 保育活動の計画を立てる。 復習： 保育活動を改善する。
第 6 回	テーマ	直前指導（全体指導と巡回者による個別指導）
	内 容	実習に向けた目標や事前準備を確認する。
	授業時間外 学修	予習： 実習施設について、調べる。 復習： 授業に内容を実習ノートにまとめる。
第 7 回	テーマ	巡回者による事後指導
	内 容	実習の振り返りを行う。
	授業時間外 学修	予習： 実習報告書を記載する。 復習： 実習の振り返りを実習ノートにまとめる。
第 8 回	テーマ	保育実習Ⅲ振り返り、実習報告会のための準備①
	内 容	実習報告会での発表に向けて、パワーポイントによる映像資料とレジユメを作成する。
	授業時間外 学修	予習： 記録した実習日誌を読む。 復習： 資料を作成する。
第 9 回	テーマ	実習報告会のための準備②
	内 容	実習報告会での発表に向けて、パワーポイントによる映像資料とレジユメを作成する。
	授業時間外 学修	予習： 資料を作成する。 復習： 発表の原稿を推敲する。
第 10 回	テーマ	実習報告会のための準備③
	内 容	実習報告会での発表に向けて、パワーポイントによる映像資料とレジユメを作成する。
	授業時間外 学修	予習： 資料を作成する。 復習： 発表の原稿を推敲する。
第 11 回	テーマ	実習報告会のための準備④
	内 容	作成したパワーポイントによる映像資料とレジユメを使ったプレゼンテーションの練習を行う。
	授業時間外 学修	予習： 資料を作成する。 復習： 発表の練習をする。
第 12 回	テーマ	実習報告会のための準備⑤
	内 容	作成したパワーポイントによる映像資料とレジユメを使ったプレゼンテーションの練習を行う。
	授業時間外 学修	予習： 資料を作成する。 復習： 発表の練習をする。

	第 13 回	テーマ	実習報告会
		内 容	実習について発表する。質疑に対して答える。
		授業時間外 学修	予習： 資料を作成する。 復習： 発表の練習をする。
	第 14 回	テーマ	実習報告会
		内 容	実習について発表する。質疑に対して答える。
		授業時間外 学修	予習： 資料を作成する。 復習： 発表の練習をする。
	第 15 回	テーマ	報告会の振り返り、まとめ
		内 容	実習準備から実習、報告会での発表を振り返る。
		授業時間外 学修	予習： 実習報告会の振り返りをまとめる。 復習： 振り返りを見直す。
教科書・テキスト	幼稚園教育要領（平成 29 年 3 月告示 文部科学省） 保育所保育指針（平成 29 年度 3 月告示 厚生労働省） 幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成 29 年 3 月告示 内閣府・文部科学省・厚生労働省） 実習ノート（羽陽学園短期大学実習委員会編）		
参考書・参考資料等	適宜、資料を配布する。		
成績評価の 方法・基準	授業への出席の様子、課題のレポート、提出物、日誌等から、各領域理解の程度（20%）、 専門的技能習得度（20%）、〔前期〕「フィードバック能力」・〔後期〕「学び続け、成長し続ける能力」 (2)獲得の程度（30%）、授業参加度（15%）、技能習得の努力度（15%）で評価する。		
課題に対する フィードバックの方法	レポートに対しては、講評を行う。発表に向けての練習では、プレゼンテーションの視点からコメントする。		
授業時間外学修	予習（各授業回約 30 分）、復習（各授業回約 30 分）として、授業計画で示された内容を実施する。 日誌やテキスト、資料を見直し、既習内容を確認する。（約 15 時間） 実習報告会へ向けた資料作り、発表練習（約 15 時間） 授業全体を振り返り自己評価し、既習内容の理解を深める。（約 3 時間）		
備 考	-		
連絡先（質問等）	担当教員に関しては、実習指導の授業においてアナウンスがある。 担当教員のオフィスアワーに関しては、学生便覧「オフィスアワー」を確認すること。 その他、実習指導の授業前後に教室にて質問を受け付ける。 外部からの講師については、授業の前後に質問を受け付ける。		

授業科目	保育実習Ⅲ	授業形態	実習	単位数	2 単位		
担当者	実習委員会委員及び実習施設職員						
ナンバリング	E42P166	開講時期	2 年次前期	授業時間数	80 時間	授業回数	一 回
必修・選択	保育士:選択必修		実務経験のある教員による授業科目		該当する		
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。					○	
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。					○	
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の業務に参加し、実践することで、施設の社会的役割の理解を深め、施設保育士の業務内容を把握し、適切に実践できるようになる。</li> <li>・施設ごとの方針について理解を深め、その施設の理念に基づいた支援を行おうとすることができる。</li> <li>・施設利用者（児）と各種活動を通じて関わり、対象の理解を進め、適切なコミュニケーションが図れるようになる。</li> <li>・施設利用者（児）のニーズを理解し、状況に応じ、適切な生活支援ができるようになる。</li> <li>・前回の実習での経験と今回の実習の経験を比較、検証をすることで、「学び続け、成長し続ける能力」 (1)「自分の実践について振り返り、より良い実践を目指して、主体的に学ぶことが出来る」ようになる。</li> </ul>						
授業計画	<p>実習内容</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設で行われている業務に参加し、実践する。</li> <li>・入所施設においては、職員の指導の下、利用者（児）の日常生活活動を支援し、自立に向けた援助を行う。</li> <li>・施設利用者（児）と各種活動を通じて、コミュニケーションを図り、対象の理解を進める。</li> <li>・施設内でのミーティング、研修等を通じて、施設保育士に求められる能力・資質についての理解を深める。</li> <li>・実習内容を適切に記録し、活動についての省察から、次の課題を自ら見つける。</li> </ul>						
	授業時間外学修	<p>予習：実習の意義や目的、心構えについて十分確認する。体調を含め実習に向けた準備を整える。</p> <p>複数年の実習報告書に目を通し、自分が行く実習先の実習内容の把握に努める。</p> <p>自分が行く施設の実習種別について、教科書等や施設のホームページを参考に施設の理解、利用者の特性などについて、あらかじめ理解を深めておく。</p> <p>復習：日誌を記入し、実習の振り返りを行う。</p> <p>実習報告書を記入し、自らの実習内容をまとめる。</p>					
教科書・テキスト	<p>実習ノート（羽陽学園短期大学実習委員会編）</p> <p>過去の施設実習の実習報告書（図書館・施設実習担当教員保管）</p>						
参考書・参考資料等	適宜、資料を配布する。						

<p>成績評価の方法・基準</p>	<p>実習施設の評価、実習報告書の完成度、記入された日誌の充実度、各種提出物の提出状況等から、総合的に「学び続け、成長し続ける能力」(1) 獲得の程度 (20%)、専門的理解の程度 (60%)、実習参加度 (10%) で評価する。実習報告会報告者は加点あり。</p>
<p>課題に対するフィードバックの方法</p>	<p>実習後に、園評価・各種提出物の得点は全てフィードバックし、講評を行う。</p>
<p>授業時間外学修</p>	<p>予習 (実習実施各日約 30 分)、復習 (実習各日約 1 時間) として、授業計画で示された内容を実施する。フィードバックされた結果を踏まえ、自己評価すると共に既習内容の理解を深める。(約 1 時間)</p>
<p>備考</p>	<p>実務経験のある担当者による授業科目である。</p> <p>担当者は、実習園にて施設職員 (施設保育士・指導員等) として業務に従事する実務経験を持つ。施設職員 (施設保育士・指導員) としての実務経験を活かして、施設の日課、施設職員の職務、利用者の生活やニーズの実態、支援 (実習) 記録の取り方、利用者との関わり方・支援のあり方について実例を示しながら指導を行う。</p> <p>実習実施にあたっては、「保育実習施設」の実習を終えており、「保育実習指導Ⅲ」で課される課題を達成していなければならない。</p>
<p>連絡先 (質問等)</p>	<p>担当教員に関しては、実習指導の授業においてアナウンスがある。</p> <p>担当教員のオフィスアワーに関しては、学生便覧「オフィスアワー」を確認すること。</p> <p>その他、実習指導の授業前後に教室にて質問を受け付ける。</p>



授業科目	保育実践研究 I		授業形態	演習	単位数	1 単位	
担当者	木村重子*、小田幹雄、高橋寛、柏倉弘和、荒明聖、密城吉夫						
ナンバリング	E52S167	開講時期	2 年次後期	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	-			実務経験のある教員による授業科目		該当する*	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	運動、音楽、造形などの表現活動をコミュニケーションの手段として、障がい児（者）や保育園児に対してワークショップを企画、実践する。ワークショップの実践後は、個人の振り返り、グループでの振り返りを行い、活動の課題について共有する。幼稚園児に対しては、影絵の製作と実践をする。各実践後には、自分達が作成したドキュメンテーションを用いて実践報告を行い、実践、記録、発表はループリックによる自己評価を行う。全ての記録をポートフォリオとして、まとめる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・コミュニケーションの手段として、運動、音楽、造形、言語などの表現活動を活かすことができる。</li> <li>・他者のワークショップを観察し、自己のワークショップの実践へ活かすことができる。</li> <li>・ドキュメンテーションを他者に伝わるように作成する。</li> <li>・ワークショップの企画、実践、振り返りを通じて、「学び続け、成長し続ける能力」(1)「自分の実践について振り返り、より良い実践を目指して、主体的に学ぶことができる」を身につける。</li> </ul>						
授業計画	第 1 回	テーマ	オリエンテーション -ワークショップとは-				
		内容	ワークショップとはどんな活動なのか、昨年度のドキュメンテーションを見ながら考える。授業内容を確認する。				
		授業時間外学修	予習：シラバスを読む。 復習：ワークショップについて、考える。				
	第 2 回	テーマ	障がい児（者）に対するワークショップ実践計画 1				
		内容	障がい児（者）に対するワークショップの内容を計画する。				
		授業時間外学修	予習：ワークショップの内容を考え、材料や道具などを準備する。 復習：ポートフォリオを作成する。				
	第 3 回	テーマ	障がい児（者）に対するワークショップ実践計画 2				
		内容	障がい児（者）に対するワークショップの内容を計画する。				
		授業時間外学修	予習：ワークショップの内容を考え、材料や道具などを準備する。 復習：ポートフォリオを作成する。				
	第 4 回	テーマ	障がい児（者）に対するワークショップ実践計画 3				
		内容	障がい児（者）に対するワークショップの内容を計画する。				
		授業時間外学修	予習：ワークショップの内容を考え、材料や道具などを準備する。 復習：ポートフォリオを作成する。				

第 5 回	テーマ	障がい児（者）に対するワークショップ実践
	内 容	ワークショップを実践する。
	授業時間外 学修	予習：ワークショップでの役割分担、準備物の確認をする。 復習：ポートフォリオを作成する。
第 6 回	テーマ	ワークショップの振り返り
	内 容	前回のワークショップの写真を使い、ドキュメンテーションを作成する。記録をもとに活動内容を振り返り、発表する。
	授業時間外 学修	予習：ワークショップでの反省点を確認しておく。 復習：ポートフォリオを作成する。
第 7 回	テーマ	保育園児に対するワークショップ実践計画 1
	内 容	保育園でのワークショップの内容を計画する。
	授業時間外 学修	予習：ワークショップの内容を考え、材料や道具などを準備する。 復習：ポートフォリオを作成する。
第 8 回	テーマ	保育園児に対するワークショップ実践計画 2
	内 容	保育園でのワークショップの内容を計画する。
	授業時間外 学修	予習：ワークショップの内容を考え、材料や道具などを準備する。 復習：ポートフォリオを作成する。
第 9 回	テーマ	保育園児に対するワークショップ実践計画 3
	内 容	保育園でのワークショップの内容を計画する。
	授業時間外 学修	予習：ワークショップの内容を考え、材料や道具などを準備する。 復習：ポートフォリオを作成する。
第 10 回	テーマ	保育園児に対するワークショップ実践
	内 容	ワークショップを実践する。
	授業時間外 学修	予習：ワークショップでの役割分担、準備物の確認をする。 復習：ポートフォリオを作成する。
第 11 回	テーマ	ワークショップの振り返り
	内 容	前回のワークショップの写真を使い、ドキュメンテーションを作成する。記録をもとに活動内容を振り返り、発表する。
	授業時間外 学修	予習：ワークショップでの反省点を確認しておく。 復習：ポートフォリオを作成する。
第 12 回	テーマ	幼稚園児に対するワークショップ実践計画 1
	内 容	幼稚園でのワークショップの内容を計画する。
	授業時間外 学修	予習：ワークショップの内容を考え、材料や道具などを準備する。 復習：ポートフォリオを作成する。
第 13 回	テーマ	幼稚園児に対するワークショップ実践計画 2
	内 容	幼稚園でのワークショップの内容を計画する。
	授業時間外 学修	予習：ワークショップの内容を考え、材料や道具などを準備する。 復習：ポートフォリオを作成する。
第	テーマ	幼稚園児に対するワークショップ実践計画3

	14 回	内 容	幼稚園でのワークショップの内容を計画する。
		授業時間外 学修	予習：ワークショップの内容を考え、材料や道具などを準備する。 復習：ポートフォリオを作成する。
	第 15 回	テーマ	幼稚園児に対するワークショップ実践計画4
		内 容	幼稚園でのワークショップの内容を計画する。
	第 16 回	授業時間外 学修	予習：ワークショップの内容を考え、材料や道具などを準備する。 復習：ポートフォリオを作成する。
		テーマ	幼稚園児に対するワークショップ実践
		内 容	ワークショップを実践する。
		授業時間外 学修	予習：ワークショップでの役割分担、準備物の確認をする。 復習：ポートフォリオを作成する。
	教科書・テキスト	昨年度の授業で作成されたポートフォリオ	
参考書・参考資料等	ワークショップとまなび1(荻宿俊文(編集) 高木光太郎(編集) 佐伯胖(編集) 東京大学出版会) また、授業中に適宜資料を配布する。		
成績評価の 方法・基準	ワークショップの企画、準備、実践、ドキュメンテーション、ポートフォリオ、振り返りレポートから ワークショップを企画し実践する基礎的な知識、技術の獲得の程度(35%)、「学び続け、成長し続ける 能力」(1)獲得の程度(35%)、授業参加度(30%)で評価する。		
課題に対する フィードバックの方法	ドキュメンテーションを使った実践報告のグループワークに教員がコメントすることでフィードバック を行う。		
授業時間外学修	ポートフォリオを制作する。(約9時間) 上記を除いた予習(各授業回約15分)、復習(各授業回約15分)として、授業計画で示された内容を実 施する。(約6時間)		
備 考	必要に応じて、授業内容を変更する場合がある。 *実務経験のある教員(一部)による授業科目である。		
連絡先(質問等)	担当教員のオフィスアワーに関しては、授業時にアナウンスを行う。 その他、授業前後およびアポイントにより質問を受け付ける。		

授業科目	保育実践研究Ⅱ			授業形態	演習	単位数	1単位
担当者	高橋寛						
ナンバリング	E51S168	開講時期	1年次後期	授業時間数	30時間	授業回数	15回
必修・選択	—			実務経験のある教員による授業科目			該当する
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	身体表現を伴った唱歌・童謡などの習得を通して、老人や幼児という異世代の文化観に触れる。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>異世代の文化観(主に歌)とその背景を理解し、それを生かしたコミュニケーション能力を獲得する。</li> <li>「フィードバック能力」(1)「自分の実践について検証し、課題を見つけることができる」を身につける。</li> </ul>						
内容と授業計画	第1回	テーマ	コミュニケーション①				
		内容	音楽とコミュニケーションの関連性について				
		授業時間外学修	予習：シラバスを熟読する 復習：授業内容を振り返り、要点や疑問点をまとめる				
	第2回	テーマ	コミュニケーション②				
		内容	歌唱や身体表現における呼吸法の重要性について				
		授業時間外学修	予習：前回授業時に与えられた課題をこなしておく 復習：授業内容を振り返り、要点や疑問点をまとめる				
	第3回	テーマ	身体表現①				
		内容	脱力体操と発声とリズム運動①				
		授業時間外学修	予習：前回授業時に与えられた課題をこなしておく 復習：授業内容を振り返り、要点や疑問点をまとめる				
	第4回	テーマ	身体表現②				
		内容	脱力体操と発声とリズム運動②				
		授業時間外学修	予習：前回授業時に与えられた課題をこなしておく 復習：授業内容を振り返り、要点や疑問点をまとめる				
	第5回	テーマ	身体表現③				
		内容	脱力体操と発声とリズム運動③				
		授業時間外学修	予習：前回授業時に与えられた課題をこなしておく 復習：授業内容を振り返り、要点や疑問点をまとめる				
	第6回	テーマ	身体表現④				
		内容	脱力体操と発声とリズム運動④				
		授業時間外学修	予習：前回授業時に与えられた課題をこなしておく				

	学修	復習：授業内容を振り返り、要点や疑問点をまとめる
第7回	テーマ	こどものたちの歌の変遷①
	内容	伝承歌とわらべ歌
	授業時間外学修	予習：前回授業時に出された課題をこなしておく 前回授業時に出された課題をこなしておく 復習：授業内容を振り返り、要点や疑問点をまとめる
第8回	テーマ	こどもたちの歌の変遷②
	内容	唱歌(明治)
	授業時間外学修	予習：前回授業時に出された課題をこなしておく 復習：授業内容を振り返り、要点や疑問点をまとめる
第9回	テーマ	こどもたちの歌の変遷③
	内容	童謡(大正～昭和)
	授業時間外学修	予習：前回授業時に出された課題をこなしておく 復習：授業内容を振り返り、要点や疑問点をまとめる
第10回	テーマ	こどもたちの歌の変遷④
	内容	こどもの歌(昭和後半～平成～令和)
	授業時間外学修	予習： 復習：授業内容を振り返り、要点や疑問点をまとめる
第11回	テーマ	こどもたちの歌の変遷⑤
	内容	第8～10回の内容と時代変遷の関連性
	授業時間外学修	予習：前回授業時に出された課題をこなしておく 復習：授業内容を振り返り、要点や疑問点をまとめる
第12回	テーマ	人間オーケストラの実践①
	内容	自分たちの声でアカペラ・コーラスを楽しむ
	授業時間外学修	予習：前回授業時に出された課題をこなしておく 復習：授業内容を振り返り、要点や疑問点をまとめる
第13回	テーマ	人間オーケストラの実践②
	内容	体をパーカッションとして使い音楽を膨らませる
	授業時間外学修	予習：前回授業時に出された課題をこなしておく 復習：授業内容を振り返り、要点や疑問点をまとめる
第14回	テーマ	人間オーケストラの実践③
	内容	身体表現としての人間オーケストラを楽しむ
	授業時間外学修	予習：前回授業時に出された課題をこなしておく 復習：授業内容を振り返り、要点や疑問点をまとめる
第15回	テーマ	音楽のもたらす人間形成への影響
	内容	仲間の表現方法を相互鑑賞し、フィードバックし合う
	授業時間外学修	予習：前回授業時に出された課題をこなしておく 復習：授業内容を振り返り、要点や疑問点をまとめる
第16回		まとめと振り返りのレポート提出

教科書・テキスト	「シニア世代の思い出ソング」ドレミ楽譜出版。その他、プリントは必要な時に随時配布する。
参考書・参考資料等	「人間オーケストラ 体は楽器だ」いかだ社、「野口体操・からだに貞く」柏樹社 ほか
成績評価の方法・基準	授業後に提出するレポートや、課題の実演などから、授業への参加度(20%)、音楽のもたらす人間形成への重要性の理解度(10%)、音楽と呼吸によるコミュニケーション時の重要性の理解度(30%)、時代と音楽の変遷の関連性への理解度(20%)、ノンバーバル・コミュニケーション時の身体表現の重要性の理解度と「フィードバック能力」(1)獲得の程度(20%)から評価する。
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポートへは、次回の授業にて開設する。必要に応じて、朱を入れて学生に返却する。
授業時間外学修	予習(30分)、復習(30分)を目安に授業計画に示した内容を実施する。
備考	実務経験のある教員の授業である。 舞台演出や、コンサートでの歌唱などでえた知見を演習で伝授する。
連絡先(質問等)	オフィスアワー 月曜日 12時25分～12時50分

授業科目	保育実践研究Ⅲ		授業形態	演習	単位数	1	単位
担当者	高橋寛、高桑秀郎、花田嘉雄、白崎直季、城山萌々、木村重子、密城吉夫						
ナンバリング	E52S169	開講時期	2年次前期 (集中)	授業時間数	30 時間	授業回数	15 回
必修・選択	—			実務経験のある教員による授業科目		該当する	
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1) 理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						
	(2) 専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						○
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1) 基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2) 実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3) 学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	<p>将来の幼児教育者（保育者）として社会に出たら即戦力となるように、経験を積み、多くの初対面の幼児や保護者が喜ぶ「遊び・遊び場」を企画・運営し、その利用者たちとのコミュニケーションの有効な手段として、音楽や身体表現を活用できるようになることを目指す。少人数のグループによる発表や、それに対する教員、学生たちからの相互発信の評価や、幼児や保護者たちからの評価をもとに、フィードバックが自身の成長の糧となることに気付く。</p> <p>また地元メディア（山形新聞・山形放送）主催の子育て応援イベント「すこやか2022」への遊び場の企画・運営に学生が主体的に関わることで、少子化時代における貴重な保育体験（例年2日間で2万人の家族連れが来場する）をし、子どもに主体的な発散の場を提供することにより、地域連携・貢献を実践し、地域の課題を解決する方法を模索し発見し学ぶ。</p>						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自ら「子どもの遊びに関連する企画」を立て実践することにより、企画・運営する能力を培う。</li> <li>・初対面の幼児同士の遊び方を知り、また彼らとその保護者への関わり方を体験し、学ぶ。</li> <li>・学外の大規模なイベントの舞台での「ショウタイムの発表」を体験し、表現者として成長する。</li> <li>・幼児の活動の実際を、体験を通して理解し、学ぶ。</li> <li>・子育て応援イベント「すこやか2022」への遊び場の企画・運営で学生が中心的役割を果たすことで、地域の課題を認識し、その解決方法を体験的に学ぶ。</li> <li>・「フィードバック能力」(3)「実践中に瞬時に判断し、修正や改善をすることができる」を身につける。</li> </ul>						
授業計画		テーマ	授業全体の内容についての講義とグループ・ミーティング				
		内容	授業の目的と実践が、自分たちの成長に有効であることを理解する。				
	第1回	授業時間外学修	予習： シラバスを熟読する。 幼児教育者（保育者）として、幼児や保護者にとってどのような存在でありたいかを、確認しておく。 復習： 授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理する。 参加意識を高め、「子どもの遊び」について1年次で学んだ多くの経験や知識を、確認し、見直しておく。				
	第2回	テーマ	音楽的活動（歌う、踊る）の実践法				
	内容	1年次で学んだ音楽的活動（歌う、踊る）の、その良さを再確認する。					

	回		現代の子どもに必要な遊びは何かを考え、企画する。
	授業時間外 学修	予習： シラバスを熟読し、前回の授業内容を反芻する。 1年次に学習した関連する内容を見直しておく。 復習： 授業内容を振り返り、要点や義民店を整理する。 音楽的活動（歌う、踊る）に不可欠な心身の要素について再確認する。	
第 3 回	テーマ	美術（遊具の素材の研究）	
	内 容	遊具に適した素材を探し、研究する。	
	授業時間外 学修	予習： シラバスを熟読し、前回の授業内容を反芻する。 日常生活の身近なもので、遊びに使えるような素材を探してみる。 復習： 授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理する。 非日常的なものからも、遊具の素材に適したものを探してみる。	
第 4 回	テーマ	身体表現（ごっこ遊び）の実践法	
	内 容	幼児の「ごっこ遊び」を疑似体験し、その面白さを確認する。	
	授業時間外 学修	予習： シラバスを熟読し、前回の授業内容を反芻する。 1年次に学習した関連する内容を見直しておく。 復習： 授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理する。 初対面の幼児同士での遊び方をイメージしてみる。	
第 5 回	テーマ	舞台での発表会の企画方法とグループ別ミーティング	
	内 容	行事に伴う発表会を企画する方法をグループ毎に模索し、相互発表・評価する。	
	授業時間外 学修	予習： シラバスを熟読し、前回の授業内容を反芻する。 1年次に学習した関連する内容を見直しておく。 復習： 授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理する。 フィードバックを受け、他のグループの企画からも学ぶ。	
第 6 回	テーマ	幼児の遊びの考察（遊具等の制作）①	
	内 容	企画に相応しい様々な遊具を考案し制作する。	
	授業時間外 学修	予習： シラバスを熟読し、前回の授業内容を反芻する。 1年次に学習した関連する内容を見直しておく。 復習： 授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理する。 遊具の安全性についても確認しておく。	
第 7 回	テーマ	幼児の遊びの考察（遊具等の制作）②	
	内 容	企画に相応しい様々な遊具を考案し制作する。	
	授業時間外 学修	予習： シラバスを熟読し、前回の授業内容を反芻する。 1年次に学習した関連する内容を見直しておく。 復習： 授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理する。 幼児が遊具をどう扱うであろうか、シミュレーションしてみる。	
第 8 回	テーマ	幼児の遊びの考察（遊具等の制作）③	
	内 容	企画に相応しい様々な遊具を考案し制作する	
	授業時間外 学修	予習： シラバスを熟読し、前回の授業内容を反芻する。 1年次に学習した関連する内容を見直しておく。	



		<p>復習： 授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理する。</p> <p>別会場へ移動・搬入する際の、遊具の取り扱いについても考えておく。</p>
第9回	テーマ	ショウタイムの発表へ向けての打ち合わせ①
	内容	1年次に学んだ音楽表現方法を復習し、グループ別にショウタイムを創る。
第10回	授業時間外学修	<p>予習： シラバスを熟読し、前回の授業内容を反芻する。</p> <p>1年次に学習した関連する内容を見直しておく。</p> <p>復習： 授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理する。</p> <p>初対面の幼児・保護者が観客であることをイメージしてみる。</p>
	テーマ	ショウタイムの発表へ向けての打ち合わせ②
第11回	内容	1年次に学んだ音楽表現方法を復習し、グループ別にショウタイムを創る。
	授業時間外学修	<p>予習： シラバスを熟読し、前回の授業内容を反芻する。</p> <p>手遊びや歌、人間オーケストラ等の要素も加える。</p> <p>復習： 授業内容を振り返り、要点や疑問点を整理する。</p> <p>グループ毎に内容を吟味しておく。</p>
第12回	テーマ	実践（学外のイベント会場にて）①
	内容	初対面の幼児や保護者が多数利用する会場で「遊び・遊び場」を企画・運営する。
第13回	授業時間外学修	<p>予習： シラバスを熟読し、前回の授業内容を反芻する。</p> <p>遊具などを分割して、学外のイベント会場へ移設する。</p> <p>復習： 辞意船内容を振り返り、要点や疑問点、改善点などを整理する。</p> <p>改善点は速やかに実施し、次回への備えとする。</p>
	テーマ	実践（学外のイベント会場にて）②
第14回	内容	<p>地元メディア主催の子育て応援イベント「すこやか 2020」における遊び場の企画・運営に主体的に参加し、各日約1万人の家族連れをもてなし、子どもに主体的な発散の場を提供することにより、その保育実践が大きな地域連携・貢献となることを体験・認識する。併せて、地域の課題を解決する方法を模索し、発見し体験的に学ぶ。</p> <p>初対面の幼児や保護者が多数利用する会場で「遊び・遊び場」を企画・運営する。</p>
	授業時間外学修	<p>予習： 前回の実践内容を反芻する。</p> <p>前回から改善された遊具を、利用者の視点から再点検しておく。</p> <p>復習： 実践内容を振り返り、要点や疑問点、改善点などを整理する。</p> <p>自分たちの企画・運営力や、アナログなコミュニケーション能力がうまく機能した場面を記憶・記録し、成長の糧とする。</p>
第15回	テーマ	ショウタイムの発表の実践と実際（学外のイベント会場にて）①
	内容	<p>地元メディア主催の子育て応援イベント「すこやか 2022」における遊び場の企画・運営に主体的に参加し、各日約1万人の家族連れをもてなし、子どもに主体的な発散の場を提供することにより、その保育実践が大きな地域連携・貢献となることを体験・認識する。併せて、地域の課題を解決する方法を模索し、発見し体験的に学ぶ。</p> <p>企画したショウタイムを初対面の幼児・保護者に披露し、フィードバックを受ける。</p>
	授業時間外学修	<p>予習： シラバスを熟読し、前回の授業内容を反芻する。</p> <p>前述の9～10回目の授業での打ち合わせを復習しておく。</p>

			<p>復習： 実践内容を振り返り、要点や疑問点、改善点を整理する。 フィードバックを受けての改善点を、理解し、善処する。</p>
第14回	テーマ	ショウタイムの発表の実践と実際（学外のイベント会場にて）②	
	内容	企画したショウタイムを初対面の幼児・保護者に披露し、フィードバックを受ける。	
	授業時間外学修	<p>予習： 前回の実践内容を反芻する。 改善点を活かし、マン・ウォッチングして初対面の聴衆の特性をつかみ、演劇的な要素も加えてみる。</p> <p>復習： 実践内容を振り返り、要点や疑問点、改善点を整理する。 様々なフィードバックを受けて、新たな企画・発表のヒントとしていく。</p>	
第15回	テーマ	まとめ（レポート等による合評会）	
	内容	イベント会場での利用者・観客からの評価等を受けて「遊び・遊び場」企画への糧とする。	
	授業時間外学修	<p>予習： 実践内容を振り返り、反芻する。 全体の実践記録に目を通しておく</p> <p>復習： 合評会での、教員や学生同士の相互発信による評価を受け入れる。 その上で、要点や疑問点、改善点を整理し、より良い「遊び・遊び場」を創るヒントとしていく。</p>	
	第16回	まとめと振り返りのレポート提出	
教科書・テキスト	こどもの歌ベストテン（ドレミ出版）ほか 1年次に履修した科目の教科書を、必要に応じて活用する。		
参考書・参考資料等	1年次に履修した科目の中から、該当する資料を必要に応じて活用する。		
成績評価の方法・基準	レポートや毎回の演習の様子やレポートの内容により、幼児教育者としての企画・実践力を育てる領域の理解度（20%）、専門的技術習得度（20%）、「フィードバック能力」（3）獲得の程度（30%）、授業参加度（15%）、技能習得の努力度（15%）で評価する。		
課題に対するフィードバックの方法	提出されたレポートについては、コメント等を加え返却し、指導する		
授業時間外学修	予習（各授業回約30分）、復習（各授業回約30分）として、事業計画で示された内容を実施する。 テキストや資料を見直し、既習内容を確認する。（1時間） 教員と学生の相互評価の結果を踏まえ、自己評価すると共に既習内容の理解を深める。（1時間）		
備考	実務経験のある教員による授業科目である。 担当教員たちは、幼児教育の現場での表現活動に理解が深く、この授業を各々2～11年担当していて、遊び場作りの企画には経験が豊富である。豊富な経験を活かして具体的な事例も含めた授業を行う。		
連絡先（質問等）	<p>オフィスアワー</p> <p>高橋：月曜日 12時25分～12時50分 高桑：水曜日 12時25分～12時50分 花田：水曜日 12時25分～12時50分 白崎：水曜日 12時25分～12時50分 城山：（授業時にアナウンスを行う。） 木村：（授業時にアナウンスを行う。）</p> <p>その他、授業前後に、教室にて質問を受け付ける。</p>		



授業科目	子どもの生活と福祉			授業形態	演習	単位数	1単位
担当者	伊藤和雄、松田水月、宮地康子、荒木隆俊						
ナンバリング	E51S170	開講時期	1年次前期	授業時間数	30時間	授業回数	15回
必修・選択	—			実務経験のある教員による授業科目			該当しない
ディプロマ・ポリシーとの関連	(1)理論と技術を学び、専門職としての自覚および技術を持つ。						○
	(2)専門性を持った職業人として社会で活躍でき、自己の向上と自己実現および生涯学習の足がかりを作ることができる。						
カリキュラム・ポリシーとの関連	(1)基礎から応用へと発展するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する専門知識と技能を段階的に修得できる教育を実施する。						○
	(2)実習を通して理論と実践のつながりを理解するカリキュラムを編成し、幼児教育および介護福祉に関する実践力を養う教育を実施する。						
	(3)学生と教員の対話を重視し、学生個人の特性や持ち味を生かした教育を実施する。						
授業の概要・方法	テキストや配布資料を用いて、児童福祉の理念や課題、児童家庭福祉施策の全体像を学ぶ。また、映像視聴やグループディスカッション等を通して児童のみならず高齢者・障がい者を含む社会福祉や地域保健について総合的に広く社会福祉や保健のあり方も理解する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育所の課題、高齢者・障がい者等の介護福祉士の課題、社会福祉協議会等に地域福祉の課題、保育所等による地域保健の課題をとりあげ、講義やグループディスカッションと報告・レポート等により説明できる。</li> <li>・「自分で考え、実践できる能力」(1)「現状をしっかりとらえることができる」を身につける。</li> </ul>						
授業計画	第1回	テーマ	オリエンテーション (担当 伊藤・松田・宮地・荒木)				
		内容	児童福祉の理念と課題、児童家庭福祉施策の全体像を学ぶ。				
		授業時間外学修	予習： シラバスを熟読する。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる				
	第2回	テーマ	保育現場で気になる子 (担当 伊藤)				
		内容	障害児保育の歴史的変遷、ノーマライゼーション、インクルーシブ保育を学ぶ。				
		授業時間外学修	予習： 事前配付資料を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第3回	テーマ	保育所の歴史とアメリカの現状 (担当 伊藤)				
		内容	保育における多文化共生を考える。				
		授業時間外学修	予習： 事前配付資料を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第4回	テーマ	介護支援専門員の在宅介護 (担当 伊藤)				
		内容	介護支援専門員、居宅介護支援事業所の役割と機能を学ぶ。				
		授業時間外学修	予習： 事前配付資料を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				
	第5回	テーマ	介護現場の現状と課題 (担当 伊藤)				
		内容	DVD視聴により介護福祉施設、介護サービスを学ぶ。				
		授業時間外学修	予習： 事前配付資料を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。				

第 6 回	テーマ	福祉保健医療の連携と課題①	(担当 松田)
	内 容	母子保健の意義、母子保健のあゆみ、母子保健施策、サービスの動向を学ぶ。	
	授業時間外 学修	予習： 事前配付資料を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
第 7 回	テーマ	福祉保健医療の連携と課題②	(担当 宮地)
	内 容	児童健全育成の意義、概要、課題を学ぶ。	
	授業時間外 学修	予習： 事前配付資料を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
第 8 回	テーマ	児童福祉施設としての保育所	(担当 伊藤)
	内 容	保育所の機能と役割を学ぶ。	
	授業時間外 学修	予習： 事前配付資料を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
第 9 回	テーマ	保育するって何だろう①	(担当 伊藤)
	内 容	児童福祉施設の区分と機能を学ぶ。	
	授業時間外 学修	予習： 事前配付資料を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
第 10 回	テーマ	保育するって何だろう②	(担当 荒木)
	内 容	保育の現場で活かす介護の視点、異世代交流を学ぶ。	
	授業時間外 学修	予習： 事前配付資料を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
第 11 回	テーマ	児童虐待って何だろう①	(担当 伊藤)
	内 容	児童虐待の種類、対処方法を学ぶ。	
	授業時間外 学修	予習： 事前配付資料を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
第 12 回	テーマ	児童虐待って何だろう②	(担当 伊藤)
	内 容	DVD 視聴により虐待、いじめの早期発見を考える。	
	授業時間外 学修	予習： 事前配付資料を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
第 13 回	テーマ	事例研究レポート①	(担当 伊藤)
	内 容	事例を基に虐待への対応、関係機関の機能と役割を学ぶ。	
	授業時間外 学修	予習： 事前配付資料を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
第 14 回	テーマ	事例研究レポート②	(担当 伊藤)
	内 容	グループディスカッション、報告を行う。	
	授業時間外 学修	予習： 事前配付資料を読む。 復習： 授業内容を見直し、要点や疑問点をまとめる。	
第 15 回	テーマ	まとめ (小テスト)	(担当 伊藤・荒木)
	内 容	これまでの授業の振り返り、ワークシートを用いてまとめを行う。	
	授業時間外	予習： 既習内容を振り返り、疑問点、理解不足の点をまとめる。	

	学修	復習： 疑問点、理解不足の点について既習内容を確認する。
	第 16 回	定期試験
教科書・テキスト	保育者のための子ども家庭福祉データブック 2023（中央法規出版）	
参考書・参考資料等	保育所保育指針(平成 29 年 3 月告示 厚生労働省) また、授業中に適宜資料を配布する。	
成績評価の方法・基準	小テストと提出してもらったレポートにより、領域理解の程度(60%)、「自分で考え、実践できる能力」(1) 獲得の程度(25%)、授業参加度(15%)で評価する。	
課題に対するフィードバックの方法	授業後に提出されたレポートについては、次回の授業にて解説する。定期試験については、採点后講評する。	
授業時間外学修	予習(各授業回約 30 分)、復習(各授業回約 30 分)として、授業計画で示された内容を実施する。	
備考	—	
連絡先（質問等）	<p>オフィスアワー</p> <p>伊藤：火曜日 12 時 25 分～12 時 50 分</p> <p>松田：月曜日 12 時 25 分～12 時 50 分</p> <p>宮地：月曜日 12 時 25 分～12 時 50 分</p> <p>荒木：月曜日 12 時 25 分～12 時 50 分</p> <p>その他、授業前後に教室にて質問を受け付ける。</p>	